

第10回 顎口腔機能セミナー 参加者募集要項



近接の佐潟より角田山を望む



メイワサンピア

【主催】 日本顎口腔機能学会

【主管】 校長 山崎 要一（日本顎口腔機能学会・会長，鹿児島大学）

セミナー企画委員長 井上 誠（顎口腔機能セミナー企画担当理事，新潟大学）

【会期】 平成29年9月8日（金）～10日（日）（2泊3日）

開始日時：9月8日（金）13時30分（予定）

終了日時：9月10日（日）12時00分（予定）

【テーマ】「これからの機能研究が向かうべき道を探る」

【会場】 メイワサンピア

〒950-2261 新潟県新潟市西区赤塚 4627-1

TEL：025-239-3232 URL：<http://meiwasunpia.com/>

【参加費】 28,000 円（予定）

（内訳 参加費 10,000 円，宿泊費 12,000 円（2泊），懇親会費・食費 6,000 円）

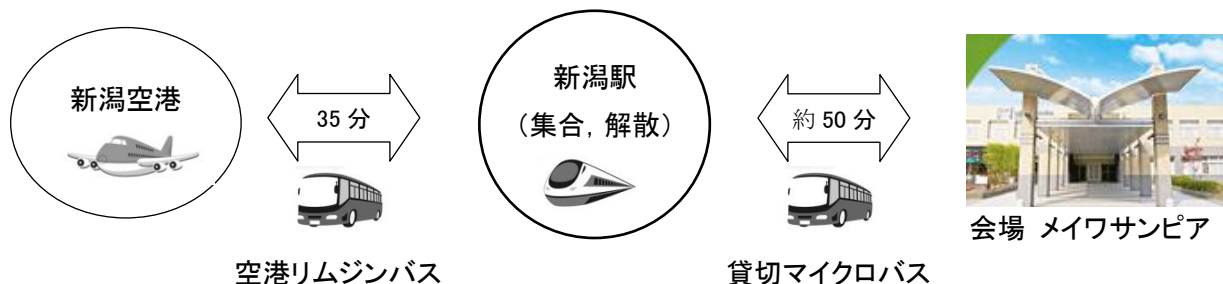
【連絡先】 第10回 顎口腔機能セミナー企画幹事 真柄 仁

〒951-8514 新潟県新潟市中央区学校町通 2-5274 番地

新潟大学 大学院 医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野

E-mail：jssfseminar2017@dent.niigata-u.ac.jp

【交通】 新潟駅集合 8日（金）12:00 新潟駅解散 10日（日）13:00 頃（予定）



【プログラム・座 学】

咀嚼機能（井上富雄先生）

嚥下機能（井上 誠）

ウェアラブル測定機器（山口泰彦先生）

統計解析（志賀博先生）

プレゼンテーションに至るまで（皆木省吾先生）

トランスレーショナルリサーチ（佐々木啓一先生）

開業医が求めるこれからの歯科医学研究（木戸寿明先生）

【プログラム・ワークショップ 実習】

顎口腔機能に関わる生体情報を測定し、その特性を明らかにするグループ実習です．

・実習テーマ（第1～第3希望まで、申込用紙に記入ください）

- 1) Arduino を使った携帯型計測装置製作
- 2) 日常生活での発話時咬筋活動を検証する
- 3) 口唇閉鎖トレーニングの有効性について
- 4) 咀嚼機能に関する検査法と舌圧検査法の習得、意義
- 5) 肩こり ～口腔習癖や姿勢との関連性～
- 6) 多チャンネル表面筋電計を用いた顎口腔機能の評価

次頁より、実習内容の簡単な説明があります．

【募集人数】

約 50 名（8 名～9 名×6 グループ）（対象は大学院生を含む若手研究者）

【参加申し込み方法】

別途の申込用紙に必要事項を記載して、メールに添付にてお申し込み下さい．

連絡先

新潟大学 摂食嚥下リハビリテーション学分野 真柄 仁

E-mail: jssfseminar2017@dent.niigata-u.ac.jp

【学会未入会の方の参加】

本セミナーに参加の方は今年度年会費が半額の 3,000 円で日本顎口腔機能学会に入会できます．詳細は http://jssf.umin.ne.jp/entry_and_exit/ をご覧ください．参加決定後、入会手続きをお取り下さい．

【申し込み締め切り】 ~~平成 29 年 6 月 16 日（金）~~

平成 29 年 6 月 30 日（金）まで延長となりました

【ワークショップ 実習 グループについて】

1) Arduino を使った携帯型計測装置製作 第2弾

- 手首装着型の VAS とイベントマーカ記録装置 -

川上 滋央 先生, 皆木省吾 先生

岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 口腔・顎・顔面機能再生制御学講座 咬合・有床義歯補綴学分野

ー概要ー

Arduino とは「初心者でも簡単に扱えるマイコンボード」であり、温度センサーや赤外線センサーなど様々な関連製品が入手できる。Arduino には多くの種類があり、中でも超小型のものをを用いることで手軽に顎口腔に関わる測定装置を作製することができる。そこで本実習では超小型 Arduino を用いて、日常生活イベントを記録できる『手首装着型の VAS およびイベントマーカ記録装置』を作製する実習を行いたいと考えている。我々はこの装置を実際の研究に用いている。本セミナーでは各自で作った装置を用いて、VAS やイベントマーカを記録する実習を行う予定である。

2) 日常生活での発話時咬筋活動を検証する

山口 泰彦 先生¹, 服部 佳功 先生², 後藤田 章人 先生³, 田中 恭恵 先生²

1, 北海道大学 大学院歯学研究科 口腔機能学講座 冠橋義歯補綴学教室

2, 東北大学 大学院歯学研究科 加齢歯科学分野

3, 北海道大学病院 高次口腔医療センター

ー概要ー

ウェアラブル筋電計の開発が進み、日常生活での咀嚼筋活動の長時間測定が可能になってきている。生活中的各動作の中で、発話時の筋活動は咀嚼やブラキシズムのそれとは鑑別し、除外するという考え方もある。だが、発話時の条件による違いや個人差など、発話時の咀嚼筋活動量の実態については検討の余地がある。本実験では、小型筋電計を用い、発話時ならびにその他の基本動作時の咬筋活動を測定し、日常生活の咀嚼筋活動における発話の位置づけを検証する。

3) 口唇閉鎖トレーニングの有効性について

増田 裕次 先生¹, 竹花 快恵 先生²

1, 松本歯科大学 総合歯科医学研究所 顎口腔機能制御学部門,

2, 松本歯科大学 歯学部 歯科矯正学講座

ー概要ー

現在、開発した多方位口唇閉鎖力測定装置を、新たな口唇トレーニング装置へと発展させようと試みている。口腔機能のトレーニングは、小児の口腔機能向上や高齢者のオーラルフレイル対策として、これからの重要な課題と考えられる。この実習では、種々のパラメーターでのトレーニング中に口腔周囲の筋活動を記録し、どのような条件でトレーニングを行うことが有効であるかを検討する。

4) 咀嚼機能に関する検査法と舌圧検査法の習得、意義

志賀 博 先生¹, 加藤 均 先生², 坂口 究 先生³, 小見野 真梨恵先生¹, 倉持 淳子先生¹

1, 日本歯科大学生命歯学部 歯科補綴学第1講座

2, 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 摂食機能保存学分野

3, 北海道大学 大学院歯学研究科 口腔機能学講座 口腔機能補綴学分野

ー概要ー

加齢に伴う口腔の機能低下（オーラルフレイル）が注目され始めており，口腔機能，特に咀嚼機能の評価に対する関心が高まってきている．一方，食物粉碎のための機能的な部位として主機能部位があり，咀嚼開始前に食物をまずこの部位に導入してから咀嚼が行われることから，咀嚼において重要な部位と考えられている．そこで，本実習では，咀嚼機能に関する検査法（咀嚼能力，咬合力）と舌圧検査法の習得と，各検査の分析を通じて，各検査法の意義や主機能部位との関連性等について検討する．

5) 肩こり ～口腔習癖や姿勢との関連性～

鈴木 善貴 先生¹, 富田 洋介 先生², 田中 佑人 先生³, 長谷川 陽子 先生⁴

1, 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 顎機能咬合再建学

2, 高崎健康福祉大学 理学療法学

3, 大阪歯科大学附属病院 障がい者歯科

4, 新潟大学 大学院 医歯学総合研究科 包括歯科補綴学分野

ー概要ー

臨床でクレンチングなどの口腔習癖が肩こりを伴う症例を経験することがある．これに関し，クレンチングが頸部筋を Co-activate しているという報告はあるが，実際に肩こりを誘発しているかは明らかになっていない．またクレンチングによる頸部筋への影響は脊柱姿勢により変化する可能性がある．本実習は口腔習癖が肩こりを誘発しているのか，あるいは脊柱アラインメントや重心などの姿勢制御との相互関係によって生じているのか，歯科・理学療法双方の観点から検討していく．

6) 多チャンネル表面筋電計を用いた顎口腔機能の評価

佐々木 誠 先生¹, 佐々木 啓一 先生², 藤原 茂弘 先生³, 米田 博行 先生³

1, 岩手大学 大学院 工学研究科 バイオ・ロボティクス分野

2, 東北大学 大学院 歯学研究科 口腔システム補綴学分野

3, 新潟大学 大学院 医歯学総合研究科 包括歯科補綴学分野

ー概要ー

岩手大学ではこれまで，舌骨上筋群全体の筋活動を捉えるためのフレキシブル 22 チャンネル表面筋電計を開発し，得られた表面筋電図から舌の随意運動，開口，嚥下などを識別する手法を提案してきた．本実習では，顎口腔機能のうち，咀嚼に焦点をあて，食品の物性値や左右咀嚼の違いが舌骨上筋群の筋活動にどのような影響を与えるのか，多チャンネル表面筋電計で評価することを目的とする．